

はじめに

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻（教職大学院）の第6期修了生による成果報告書抄録集をお届けします。

本抄録集は、静岡県教育委員会派遣の教員（15名）および研修休業制度による教員（1名）の現職大学院生16名、大学卒業後に本専攻に入学した学卒大学院生4名の合計20名の修了生が、2年間にわたり探求してきた実践的研究の取組の経過および成果の概要をまとめたものです。この抄録集をご覧いただき、教職大学院修了生各自がこの2年間何をどのように学び、どのような課題に取り組み、どのように実践的指導力を身に付けようとしたのか、それぞれの学修プロセスをご理解いただけましたら幸いです。また、修了生による取組の成果が学校教育現場の課題解決や組織マネジメント、授業や生徒指導等の教育活動の一層の充実と改善につながることを切に願っています。

さて、こうした抄録集をどう見るかについて、ピーター・センゲの「学習する学校」の考えが参考になります。センゲが『最強組織の法則』（1990）を刊行して以来、「学習する組織」、「学習する学校」のコンセプトが知られてきています。それを簡潔に言えば、教員（または子ども）の協働的な活動（または学習）を通じて、主体的で問題解決力の高い（このとき会得される思考をシステム思考といいます）組織（または学習集団）に変革していくことです。本抄録集は、理論と実践の往還を図りつつ、目的的で様々な形態のチーム学習を取り入れたことによって到達した成果であり、院生それぞれがシステム思考を身に付けテーマに対して探求した結果であるといえます。このような見方に立てば、本抄録集は、いわば「学習する教職大学院」の成果が、ここに論文的に可視化されたものということができましよう。

なお、本抄録集の刊行と同時に、3月5日（土）には本専攻の主催による公開成果報告会を開催しています。公開成果報告会には、毎年、静岡県教育委員会、政令市教育委員会、静東・静西教育事務所をはじめ、現職院生の在籍校、実習の連携協力校から多数の関係者のご参加をいただいています。また、教職大学院の実践的研究成果に関心をもつ大学研究者・院生等のご参加を得ています。ご参加いただいた皆様には、心から御礼申し上げます。

今後も、修了生が新しい学校づくりを進める新人教員として、あるいは、スクールリーダーに相応しい力量を備えた中核的中堅教員として、それぞれの立場で教職大学院における2年間の学修成果を学校や地域に積極的に還元し、学校や教育委員会等でさらなる飛躍を遂げることを期待しています。本専攻修了後の着任校あるいは採用校における修了生の教育実践の質的向上に関しても、送り出した我々教職大学院スタッフ一同が引き続きサポートしようと考えているところです。

これを機に、本教職大学院が静岡大学教育学部・大学院教育学研究科と学校教育現場や教育委員会との間に、一層緊密な協働関係を構築するハブ機能としての役割を果たしていくことを願っております。

2016年3月吉日

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻
（教職大学院）
専攻長 山崎保寿